

JSR 株式会社  
2023 年 3 月期決算説明会 質疑応答要旨  
(2023 年 4 月 27 日開催)

## 1. 全体について

Q) 今期、デジタルソリューション事業とライフサイエンス事業でコア営業利益 430 億円の見込みに対し、中計目標は 600 億円と、FY24 は 200 億円弱増益の計画となる。ライフサイエンス事業の抗原検査キットの売上・利益が FY24 にある程度なくなったとしても、中計目標のライフサイエンス事業で営業利益率 20%や 2 事業のコア営業利益 600 億円以上の達成は可能か。

- 中期目標の達成は可能であると考えます。
- まず、ライフサイエンス事業の抗原検査キットに関しては、昨年度ほどではないが今年度も大きくプラスに貢献はするものの、もともと中期経営計画に織り込んでいなかった。
- ライフサイエンス事業のコア営業利益率 20%は、収益改善策を実行することにより達成していく。収益改善策として、KBI や Crown、その他ライフサイエンス事業の詳細かつ体系的なプログラムを実行中。トップライン成長に加え、収益改善策を実行することによりコア営業利益率 20%の達成は可能と考えます。
- デジタルソリューション事業の半導体材料は、FY23 の下期に需要が底打ちし、その後回復する前提。市場が回復すれば、マージンが高い先端材料の需要増によるトップライン成長とシェア拡大により中計目標の達成が可能とみている。ディスプレイ材料はパネルメーカーの稼働率や在庫レベルが改善してきており、回復基調。エッジコンピューティングの対面市場であるスマートフォン市場は、弱い環境がもう少し続きそうだが、長期的には回復すると見ている。

## 2. デジタルソリューション事業について

Q) 半導体材料について。FY22Q4 の実績で EUV だけが QoQ 増収になっている背景を教えてください。また、FY23 計画について、半導体材料全般の四半期ごとのイメージを教えてください。

- FY22Q4 は、半導体材料全般的に需要減の影響により減収。加えて、急激な需要減速の局面で顧客の在庫調整が発生した。
- 一方、当社の EUV は QoQ +30%という実績だった。この主要因は MOR(メタルオキシドレジスト)の比較大きな取引が Q4 にまとまったため。この MOR の売上が毎四半期継続する、あるいは需要動向に大きな変化があったということではない。ただ、市場での MOR の浸透が確実に進んでいることの現れであり、当社も自信を持っている。
- FY23 の上期は FY22 下期に見られた需要減が続くという見立て。一方、FY22Q4 の QoQ-24%の売上実績の中には、在庫調整が含まれており、FY23Q1 に向けては在庫調整分が改善する方向。需要そのものの回復は年度の後半に見えてくるという見立て。

Q) 半導体材料について。FY23の見通しを3か月前に開示しており、今回も変更がないが、足元で半導体メーカーが減産を発表するなど悪いニュースが出てきている。当社のFY23の計画にはどれほど足元の状況が織り込まれているのか。

- 半導体メーカーの減産アナウンスが直近でているが予算策定時からこのような需要減は見えていた。一方、これらの足元の状況が今後どれほどマイナスのインパクトに繋がるかはまだ不透明である。現時点では今回発表したFY23計画の通りだが、引き続き需要環境には注視していく。

### 3. ライフサイエンス事業について

Q) バイオテックの成長鈍化が見られていると思うが、CRO事業だけではなくCDMO事業への影響はないのか。

- ご存じの通り、投資環境の減速感は主にCRO事業に影響が出ている。CRO事業はベンチャー企業が強みとする先端領域に注力しているものの、幅広く事業を展開しているので影響が出るのは一部である。
- CDMO事業に関しては、顧客がすでに製造しようとしている医薬品はすでに進行中の先端治療薬であり、顧客にとって非常に貴重なアセットである。そのため、ベンチャー投資の混乱が、これらの先端の治療薬に与える影響はないと考えている。CDMO事業の成長は引き続き堅調。

Q) CDMO事業について。新工場の立ち上げ状況、プロダクト2の進捗・今後の貢献について教えてほしい。

- KBIの新工場で生産されているプロダクト1と我々が呼んでいる製品は、新工場のキャパシティの大半を占めている。一方で、プロダクト2という同じ顧客の製品の製造がFY23Q1に計画されている。プロダクト2の医薬品はまだ臨床試験の早い段階であるため一度FY23Q1に製造し、フェーズが進むと再度製造する予定。詳細なスケジュールは未定だが、どこかのタイミングでプロダクト1のように上市を見据えて段階的にランプアップしていく想定。
- また、同顧客から同種の治療薬を複数件、新工場で生産することも検討いただいている。そして、他の顧客からも増の需要が高まっている。我々が持つ幅広いパイプラインが商業生産の機会拡大に繋がると自信をもっており、利益改善のドライバーとなる。(KBIのパイプライン数はYoY+15%と順調に伸長。)

Q) ライフサイエンス事業について。FY22 Q3からQ4はコア営業利益で42億円の減益。何か特殊要因があったかどうか、またFY23の計画について解説してほしい。

- FY22Q3からQ4のQoQの減益は、ほぼ抗原検査キットの販売タイミングが要因。その他にはCRO事業でのM&A実施に伴うM&A費用が一部含まれている。
- CDMO事業ではFY22Q3に比較的大きな廃棄損などが発生したが、Q4は新工場の立ち上げもスムーズに進んだことから、赤字ではあるものの収益が改善。
- FY23は、抗原検査キットの販売を下期に見込んでいる。ただ、売上はFY22と比較して何割か減

少する。一方、CDMO 事業が増収増益することで抗原検査キットの減収分を補う計画。CDMO 事業の FY22 利益は赤字だったが、FY23 には黒字化。新工場が下期に向けてフル稼働に向かうことで、利益が拡大し、FY23 は数パーセントの営業利益率を達成する。なお、テクニカルな話にはなるが、FY23Q1 に KBI コロラド工場の修繕がずれこみ、この売上貢献がほぼなくなる。また新工場のフル稼働は下期に向けて拡大するため、上期は少し弱く見える。

Q) CDMO 事業について。CDMO の利益率が FY23 に一桁%だとすると、FY24 に一気に 20%台に改善する計画になると思う。中計目標のライフサイエンス事業でコア営業利益率 20%達成に向けて、改めて CDMO 事業の人員数や生産性の改善などを補足いただきたい。

- まず FY23 は、KBI のコロラド工場が修繕により FY23Q2 からの売上貢献、また新工場のフル稼働も Q3 以降を想定しているので、売上は下期に向けて上がる見込み。FY24 は、FY23 の上期に弱かった部分がフルで貢献するため、利益に貢献する。
- 更に、収益改善のプロジェクトの成果も出していくため、FY24 の CDMO 事業の利益改善というのは達成であろうと見込んでいる。

Q) CDMO 事業について。新工場で製造している医薬品の FDA 承認状況についてアップデートいただきたい。KBI の受注状況でリスクと感ずる部分はあるか。

- 医薬品の承認については顧客マターであるが、生産を拡大させ、在庫を積み上げていることから、顧客も FDA 承認を見据えていることが分かると思う。
- リスク面について、何か問題や懸念とされる点は見られていない。生産したバッチのデータ上も問題は確認されておらず、必要とされるデータセットは顧客へ提出済み。顧客からの受注通り、生産をランブアップしていく。

以上